かずさの博物誌

アキアカネの産卵

～房総の避暑地は謎～

文・写真／成田篤彦

2015.10.20

この秋、三方が林に囲まれた狭い水田跡を訪れた。

刈り取られた稲株から二番穂が伸びていた。

珍しく、稲穂が稲掛けにかけてあった。稲掛けの竹に、交尾している赤とんぼが止まっていた。

普段は乾燥している稲株の間に小さな水たまりがあちこちにできていた。そこで、オスとメスが連結した赤とんぼが懸命にはばたいて、長い腹部を水面に差し込んでは飛び上る。近づくと稲葉の間を縫うようにして飛び、素早く遠ざかり、再び、水面に腹部を差し込んでいる。

連結しているオスの腹部の背が赤く、頭や胸は褐色。メスは全身が褐色であった。

▶アキアカネが産卵する水田地帯　二〇一五年十月十二日木更津市

「アキアカネの産卵だ。久しぶり」と夢中でシャッターを切った。稲穂が邪魔になり、撮影が難しかったが、何とか産卵の様子が撮れた。

アキアカネは上総でも代表的な赤とんぼである。

毎年、川の土手や公園の桜並木などの枝先に止まっている。だから、近くで産卵しているはずだ。だが、不思議なことに、ここ数年、交尾や産卵している姿に出会っていなかった。それもあって、撮影できたことが嬉しかった。

さて、アキアカネは平地から丘陵地の湿地、水田、湖沼などにヤゴ（とんぼの幼虫）がすむ。六月頃、羽化する。若いトンボは黄褐色で柔らかい体をしている。

▲アキアカネの交尾　2015年10月12日木更津市

▶アキアカネの産卵　前がオス、後ろがメス　二〇一五年十月十二日木更津市

そのころ、若いトンボが集団で市街地に飛んできて話題になることがある。上総でも梅雨の頃にその集団が見られた。

その後、低地から山地に長距離の移動をし、七～八月の真夏は高所で生活する。秋になると成熟し、腹部が真っ赤になり、低地に戻って来て水田跡の水たまりなどで産卵する。

ところで、夏に房総丘陵地をいくら探してもアキアカネは見つからない。房総で羽化したものがどこで夏を過ごすか未だに謎である。

上総のアキアカネの避暑地を解き明かす何か良い方法がないものだろうか？

▲竹の先に止まるアキアカネ　2013年11月1日木更津市

memo

アキアカネ

トンボ目　トンボ科

体長約四センチメートル。日本、朝鮮半島、中国などに分布。

近年、全国的に殺虫剤などの影響で減少しているといわれている。

上総ではノシメトンボやナツアカネなどの赤とんぼが目立ち、アキアカネはやや目立たない印象がある。

赤とんぼは谷津田の陽だまりなどでは十二月上旬まで見られる。

参考文献　復本一郎監修『俳句の鳥・虫図鑑』1979成美堂

◎写真・文章の無断転載を禁じます。